

R19c 銀河系と近傍矮小銀河のミラ型変光星探査

松井真、中西裕之、祖父江義明、面高俊宏 (鹿児島大)、福士比奈子、松永典之、三戸洋之、中田好一 (東京大学)

銀河系の大局的なガスの分布についてはよく知られているが、星の分布については距離測定が困難な点から太陽近傍しかわかっていない。

そこで、我々は周期光度関係で距離を推定することができるミラ型変光星を用いて銀河系の構造やダイナミクス、また、周期光度関係の傾きが宇宙共通かどうかを調べるために木曾シュミット望遠鏡を用いてミラ型変光星の探査を行った。

観測は木曾シュミット望遠鏡でIバンドを用いて8月に3夜、9月に2夜、10月に5夜、12月に1夜、2月に4夜観測を行うことができ、その結果合計88天体のミラ型変光星の候補星を発見することができた。